

治療薬学特論Ⅰ		選択	春学期	1単位
担 当 者 〔研究分野〕	成田 年 〔薬理学〕 葛巻 直子 〔薬理学〕 濱田 祐輔 〔薬理学〕 須田 雪明 〔薬理学〕			
到達目標・目的	薬学において治療に根ざした薬の効果を議論するときには、その病態を分子レベルから統合的に理解する必要がある。本講義では、細胞の分化、劣化を解説し、その知識を基盤としてフェノミクス解析を行ない、既存の病態評価の適正を判断することを第一の目的とする。このように、病態メカニズムを理解し、難治性疾患の新しい治療戦略を模索する思考力を身につけることを本講義のエンドポイントとする。			
受講心得・準備学習等	アドバンスな講義であるため、講義に集中すること。 講義に臨む準備としては、前回の復習をしっかりと行うことと、各講義の終わりに次の講義に臨むための予習範囲を示すので、予習をしておくこと。			
事後学習・復習等	まずは各講義の後の復習を行い、重要な病態の把握、各病態の治療薬のまとめを行うこと。薬に関しては、適応症、薬理作用発現機序を整理しておくこと。			

授業の方法と各回の内容

授業の方法		スライド、プリント等により行い、総合討論の時間を設ける場合がある。	
回	項 目	内 容	担当者
1	各種病態理解と新しい治療戦略の模索	精神科/神経内科領域で使用される薬物の分子薬理学的特性①	成田
2	〃	精神科/神経内科領域で使用される薬物の分子薬理学的特性②	成田
3	〃	精神科/神経内科領域で使用される薬物の分子薬理学的特性③	成田
4	〃	精神科/神経内科領域で使用される薬物の分子薬理学的特性④	成田
5	〃	中枢神経回路網の機能解析研究の最近の潮流と病態解析への応用	濱田
6	〃	病的老化機構の理解と中枢神経疾患研究への応用	葛巻
7	〃	中枢神経疾患患者から採取した細胞を用いた病態解析①	須田
8	〃	中枢神経疾患患者から採取した細胞を用いた病態解析②	葛巻
9	〃	神経発生と再生医療研究の最近の展開	葛巻
10	〃	神経精神薬理領域の最近の展開	葛巻

成績評価の方法	出欠席、受講態度によって行う。
成績評価の基準	講義参加時の討論の内容、回答に基づき評価する。 また、講義受講態度ならびに出席状況によっても総合的に評価する。
教科書	プリントを配布する予定。
参考書など	
その他	